

泌尿器科コース

プログラムの目的

日本泌尿器科学会研修認定施設として、将来同学会専門医資格を取得するためのプログラムである（専門領域科宣言後 3 年間研修終了により専門医試験の受験資格を得る）。臨床医としての基礎的な技術を習得し、さらに高度な医療も身につけていただく。また、クリニカルパスを理解し、チーム医療の実践に積極的に取り組んでいただく。総合的な泌尿器科医として自立でき、専門医の取得により社会貢献のできる医師を養成する。

研修内容と到達目標

3 年間の研修目標は、総合的な泌尿器科の説明技術、診断技術、治療技術の習熟である。外来診療を行うことができ、適切な治療の判断と説明を行うことができる。また、手術の技術を高め、難易度の低い手術は自立して完遂することができ、難易度の高い手術では手術助手として術者をサポートできるだけの技術を身につける。周術期の管理も適切に行える。さらに、学会活動に積極的に参加し、学会報告も行えるようになる。

実際に行われる研修内容は下記のとおりである。

【1 年次】

指導医の指導・支持を受けながら、以下の研修を行う。

- (1) 手術：難易度の低い手術（環状切除術、精巣摘出術、経尿道的前立腺摘除術など）の術者を経験し、手術を部分的または完遂できる。難易度の高い手術（前立腺・膀胱全摘除術、鏡視下腎摘除術など）については、助手として手術を完遂できる。
- (2) 外来：新患の病歴・理学所見の聴取が行える。尿路のレントゲン検査、超音波検査、内視鏡検査を行うことができる。検査結果を正確に把握し、患者さんに分かりやすい説明ができる。
- (3) 病棟：ほとんどの患者の周術期管理ができる。カンファレンスで簡単な症例提示が行える。クリニカルパスを理解する。
- (4) 臨床研究：学会などに積極的に参加する。症例報告を行い、論文発表を行う。

【2 年次】

基本的内容は 1 年目と同じであるが、より自立して行うことができる。

【3 年次】

泌尿器科専門医に求められる技術全般を自立して行うことができる。

- (1) 手術：難易度の低い手術は自立した術者として完遂することができる。難易度の高い手術も助手だけでなく、術者として経験する。
- (2) 外来：新患のみならず、週 1 ないし 2 回の再来診療も担当し、幅広い診断技術を取得する。治療・手術適応の判断を自立して行える。クリニカルパスを実践し、チーム医療が行える。治療内容などの説明を行うにあたり、コミュニケーションスキルの向上が求められる。
- (3) 病棟：複雑な病態についての説明だけでなく、患者や家族の背景も考慮した説明を行うことができる。術後の合併症にも適切な対応をすることができる。

臨床研究

学会などに積極的に参加する。症例報告や治療成績についての学会発表、論文作成を行う。